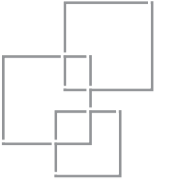


9月定例会では、8月31日から9月2日にかけて15人の議員が一般質問を行いました。紙面の都合により、質問と答弁の要旨を1人1問ずつ紹介します。

なお、一般質問の様子は、太田市議会ホームページ「インターネット中継」からご覧いただけます。

また、定例会の正式な会議録は、市政情報コーナーや市立図書館、市議会ホームページ、議会事務局などで12月下旬からご覧いただけます。



本市の魅力の発信について



太田クラブ 八長 孝之

議員 本市の施策や環境面での魅力について伺います。

企画部長 東京圏から近く、通勤通学が可能であることに加え、自然も豊かで、災害が少ないことから、暮らしやすい環境であると考えます。また、給食費や医療費の助成、第3子以降の出産祝金や保育料免除など、子育て支援に注力するとともに、芸術学校やスポーツ学校、プログラミング学校など、教育環境の充実に努めており、市民満足度アンケートでも高い評価を得ています。

議員 施策の充実や本市の魅力の発信について、今後の具体的な取り組み方針を伺います。

企画部長 来年度オープンの新市民体育館を活用し、スポーツや音楽イベントを通じて、持続的ににぎわいを醸成し、交流人口の増加を図りたいと考えます。また、企業版ふるさと納税等を活用するとともに、企業誘致や行財政改革を進め、雇用の促進やさらなる子育て支援を展開し、

住みたいと思われる魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。

議員 魅力ある本市に、多くの人に訪れてほしいと考えますが、今後のまちづくりについて、市長の所見を伺います。

市長 子育て支援に重点を置くことで、本市の評価や、移住・定住につなげていきたいと考えます。

議員 本市の魅力の積極的な発信について、所見を伺います。

市長 今住んでいる人のためにベストを尽くすことが非常に大切だと考えます。地道ではありますが、本市のプライドを高め、それが段々と浸透していくことが重要であると考えます。



気温40度に達する猛暑への対策と脱炭素を目的とする地域電源の創設について



創政クラブ 今井 俊哉

議員 暑さ指数(WBGT)に対する認識について伺います。

総務部長 暑さ指数とは、熱中症の危険度を判断するための指標です。日本スポーツ協会では「熱中症予防運動指針」を公表するなど、さまざまな現場において指標として活用されています。



議員 本市主催のスポーツ行事等における暑さ指数の利用状況を伺います。

文化スポーツ部長 令和3年度から、おたスポーツ学校では、暑さ指数に基づき熱中症対策を行っています。なお、現状では、本市の関係団体が主催する大会において、暑さ指数は利用していません。

議員 おたスポーツ学校では、昨年

から暑さ指数を利用していますが、この先進的な取り組みを、本市の関連するスポーツ団体まで波及させてほしいと考えます。そこで、熱中症による重大事故を防ぐための手立てについて伺います。

文化スポーツ部長 熱中症対策ガイドライン等を参考に、予防対策を講じていきたいと考えます。また、スポーツ団体の主催者が暑さ指数を理解し、的確に判断できるよう指導するとともに、スポーツ施設への暑さ指数計の設置等を検討していきたいと考えます。

議員 熱中症による事故防止のため、より科学的で有効な対策が必要であると考えますが、市長の所見を伺います。

市長 熱中症の危険性に気付くことが非常に重要で、そのための道具として、暑さ指数計が欠かせないと考えます。大変よい質問をいただきましたので、来年の夏には間に合うように、市内の全てのスポーツ少年団に暑さ指数計を配布していきたいと思えます。



安心・安全な水道水を活用した熱中症対策について



公明クラブ 前田 純也

議員 地球温暖化による気温上昇が著しく、本市は全国的に見ても暑い地域ですが、子どもたちを熱中症から守るための考え方について、所見を伺います。

教育長 子どもたちを熱中症から守るために必要なことは3つあると考えています。1つ目は、教育委員会がエアコンの適切な運用等、施設の有効活用を進めること。2つ目は、学校が暑さ指数計や熱中症アラートを参考に、子どもたちの安全を考え、夏場の活動を素早く制限すること。3つ目は、子どもたち自身が自ら危険を判断し、熱中症に対処する力を身に付けることであると考えています。

議員 熱中症のリスク回避や登下校時の負担軽減のために、学校への冷水機の導入が必要であると考えますが、市長の所見を伺います。

市長 現在、2.5キロ以上の通学はスクールバスとし、学校にはエアコンも整備しています。公助だけでなく、体のリスク管理は自分でできるよう、生きる力を身に付

けてもらいたいと考えます。今後要望があれば協議したいと思っています。



議員 夏の期間だけでも、スクールバスに乗車できる子どもたちを増やすことで、熱中症対策につながると考えますが、所見を伺います。

市長 要望があれば協議していきたいと思いますが、いずれにしても、子どもたちが自らリスク管理できる力を身に付けてほしいと考えます。

■その他の質問

・マイ・タイムラインを活用した地域防災の強化について

・プラごみの削減に向けた取り組みについて



本市の清掃事業について



太田クラブ 大川 敬道

議員 本市のごみステーション収集業務の契約について伺います。

産業環境部長 可燃ごみは太田広域一般廃棄物事業協同組合、不燃・資源ごみ等は太田市環境整備事業協同組合と契約しています。

議員 各組合との契約内容と契約方法について伺います。

産業環境部長 市内全域のごみステーションの可燃ごみ及び不燃ごみ・資源ごみ等の収集運搬業務を行うものです。契約方法は、随意契約となっています。

議員 ごみ収集業務委託を随意契約とした理由について伺います。

産業環境部長 市民生活に直結する収集運搬業務は、安全かつ継続的に遂行させる必要があるため、業務に精通した業者との随意契約としています。

議員 足利市や熊谷市は、収集地域ごとに入札を行い、受託業者を選定しているようです。本市でも、競争入札を行うことで、市内業者の参入する機会が増える

と考えますが、所見を伺います。

産業環境部長 安定的で衛生的な処理を継続する必要があることから、県内12市の多くが随意契約を行っています。また、市民1人当たりの委託金額は県内でも安く、妥当な契約であると考えます。

議員 ごみ収集業務委託契約について、入札を実施し、業者を選定すべきと考えますが、市長の所見を伺います。

市長 ごみステーションをきれいな状態で維持する必要があるため、市民に迷惑をかけられないものです。また、単価も非常に安く抑えられており、ローコストでやろうと努力してくれていると認識しています。

